

(令和3年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター		令和3年度経営計画 兼 経営努力結果	
基本事項			
所管局課	産業観光局 クリエイティブ産業振興室	本市出えん金	54,000 千円
基本財産/資本金	90,000 千円	本市出えん率	60.0 %
当年度の取組目標			
業務面	<p>目標1 「京都市勸業館の利用促進」 新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な状況にあるが、催事開催に向けた「感染拡大予防ガイドライン」を発信するとともに、当社が独自の支援策を講じることで主催者が催事を開催できるようサポートし、稼働率の確保につなげる。</p> <p>目標2 「京都伝統産業ミュージアムの認知度向上」 令和3年度から運営を担う京都伝統産業ミュージアムについて、企画展等を開催し、来館者の増加につなげる。</p>		
財務面	<p>目標1 「京都市勸業館みやこめっせ事業における収入の確保」 新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、感染予防対策による催事の取り止めが相次ぐことも想定され大変厳しい状況であるが、催事開催に向けた「感染拡大予防ガイドライン」を発信するとともに、当社が独自の支援策を講じることで主催者が催事を開催できるようサポートし、利用料収入の確保につなげる。</p> <p>目標2 「ミュージアムショップ事業における収入の確保」 新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、他府県の方、海外の方の来店が見込めず、売上の確保は厳しい状況にあるが、ミュージアムの企画展とも連動した魅力ある商品展開により商機を逃さず、売上の確保につなげる。 記念品販売について、これまでの”待ちの姿勢”ではなく、新規販路の開拓を行う。</p>		
組織面	<p>目標 「持続可能な経営のための組織強化」 指定管理業務の変更に伴い、これまで公益財団法人が行っていた京都伝統産業ミュージアム事業を当社が継承することから、財団職員も当社社員として入社してもらうこととしている。営利企業である株式会社においては事業収支が求められ、ビジネスの視点で業務を行うことが必要となることから、研修の実施等により社員の意識改革を図る。</p>		
その他	<p>目標 「持続可能な経営」 令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症に伴う催事の見送り傾向が見られ、令和2年度に引き続き稼働率のV字回復が見込めない中、当期純利益の確保は相当厳しい状況であるが、収支の改善に向けて、営業の強化、経費の削減に取り組む。 自律化について、新型コロナウイルス感染症の影響により財務状況が悪化し、今期に引き続き来期も大幅な赤字となる見通しであることから、当社の企業価値が下がっており、現時点で京都市所有の株式の買い手がなく、当面の自律化が困難な状況である。企業価値の回復には、安定した収益性の向上が求められることから、相当の時間を要すると思われるが、まずは収支の改善に向けて取り組んでいく。</p>		
当年度の取組目標に対する意見			
所管局	<p>新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明である中、35%以上の安定した稼働率を確保することは大変厳しい状況であるが、催事主催者等とともに感染拡大を徹底し、状況を見ながら催事開催をサポートしていくことで、施設としての信頼を得るとともに、新規顧客や固定客の獲得に繋がることから、引き続き、積極的な情報収集と営業活動に取り組む、成果に結び付けていただきたい。</p> <p>また、京都伝統産業ミュージアムの運営とミュージアムショップとの更なる連携を図ることで、顧客層の拡大や勸業館の利用促進を図るべく、積極的に検討を進められている点は非常に評価できる。</p> <p>今後も、京都伝統産業ミュージアムの来館者増や同ミュージアムを核として実施する事業の充実と、勸業館の利用促進に係る取組の相乗効果を生み出すことにより、収入の確保に努めるとともに、経営の効率化による利益率向上、閑散期対策における自主企画事業の充実等により、コロナ禍における安定した経営に取り組んでいただきたい。</p>		

(令和3年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

当年度の取組目標に対する総括(※)

団体	令和3年度から、京都伝統産業ミュージアムの運営を当社が担うことになったことで、財務構造が大きく変化した。引き続きコロナ禍の影響を大きく受ける中で、展示場運営部門の収支が回復せず、インバウンド需要も消失し、伝統産業部門も物販をはじめとする売上の確保が大変厳しかった。今後、伝統産業部門での安定した収益の柱を確立していくことが、経営の要点であると考えている。
所管局	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、感染防止対策の徹底や催事開催のサポート等の取組を行ったことにより、展示場稼働率36.98%、利用料収入389,720千円といずれも昨年度の実績を上回った。ただし、コロナ禍前の水準までは回復しておらず、今後も稼働率の向上に向けた更なる取組が必要である。 また、令和3年度は伝統産業ミュージアムの管理運営の初年度であったが、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、来館者数、ミュージアムショップの売上についても目標に届かず、厳しい状況であった。今後、伝統産業ミュージアムとミュージアムショップが連携した様々な企画の実施や更なる販路開拓等により、来館者の増加及び安定した売上を確保する必要がある。

(1)業務に関する取組

目標1「京都市勤業館の利用促進」

当年度目標	新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な状況にあるが、催事開催に向けた「感染拡大予防ガイドライン」を発信するとともに、当社が独自の支援策を講じることで主催者が催事を開催できるようサポートし、稼働率の確保につなげる。
当年度結果(※)	感染拡大ガイドラインについて、必要に応じて都度更新し発信するとともに、 ・主催者の安全・安心な催事開催のサポート ・お客様満足度の向上に向けた取組 ・WEB、SNSでの積極的な情報発信 ・伝統産業ミュージアムで取扱う工芸品を活用した記念品等の主催者への提案 ・コロナの影響で利用が途絶えた顧客への情報提供 等に取り組み、令和3年度の稼働率は36.98%となり、昨年度から16.72ポイント改善することができた。

指標1	展示場の面積稼働率 (単位：%)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	53.00	52.85	53.50	50.71	54.50	21.56	35.00	36.98

目標2「京都伝統産業ミュージアムの認知度向上」

当年度目標	令和3年度から運営を担う京都伝統産業ミュージアムについて、企画展等を開催し、来館者の増加につなげる。
当年度結果(※)	令和3年度は、「新時代の工芸」を年間テーマに2回の有料企画展を開催した。 上期：スペースマウンティング(入場者数2,242人) 下期：SHOKUNIN pass/path(職人パスとパス)(入場者数2,023人) ミュージアムへの来館者数については、コロナ感染症の影響で市の要請により75日間施設閉鎖したこともあり、72,558人となり目標の76%にとどまった。

指標1	ミュージアム来館者数 (単位：人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
							94,000	72,558

(令和3年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	696,800	707,344	717,000	462,212	499,000	584,173	
経常費用	682,700	683,661	698,500	559,750	629,600	624,046	
経常利益	14,100	23,683	18,500	△ 97,538	△ 130,600	△ 39,873	

目標1「京都市勧業館みやこめっせ事業における収入の確保」

当年度目標	新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、感染予防対策による催事の取り止めが相次ぐことも想定され大変厳しい状況であるが、催事開催に向けた「感染拡大予防ガイドライン」を発信するとともに、当社が独自の支援策を講じることで主催者が催事を開催できるようサポートし、利用料収入の確保につなげる。
当年度結果(※)	上記、業務に関する取組「京都市勧業館の利用促進」に記載のとおり、主催者の開催サポートをはじめとする利用促進の取組を行ったことで、目標(コロナ禍)を上回る稼働率実績となり、利用料収入についても目標を上回る実績となった。しかし、2年連続で取り止めやオンライン開催等の大型催事も多く、本格的な回復基調ではないと認識している。

指標	施設利用料収入								(単位:千円)
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		実績(※)
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
							351,000		389,720

目標2「ミュージアムショップ事業における収入の確保」

当年度目標	新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、他府県の方、海外の方の来店が見込めず、売上の確保は厳しい状況にあるが、ミュージアムの企画展とも連動した魅力ある商品展開により商機を逃さず、売上の確保につなげる。 記念品販売について、これまでの”待ちの姿勢”ではなく、新規販路の開拓を行う。
当年度結果(※)	インバウンド需要が完全に消失した中で、1月には「珈琲とうつわ展」としてショップの企画展を実施するなど販売強化に努めたが、ミュージアムショップ店舗の売上確保は大変厳しい状況となった。また、記念品販売についても、コロナ禍にあって学会や大会等の催し自体が減少し、売上の確保は大変厳しいものとなった。オンラインショップの売上については比較的堅調に推移したものの目標の85%にとどまった。

指標	商品売上及び記念品販売収入								(単位:千円)
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		実績(※)
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
							70,500		39,633

(令和3年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

(3)組織に関する取組

目標「持続可能な経営のための組織強化」	
当年度目標	指定管理業務の変更に伴い、これまで公益財団法人が行っていた京都伝統産業ミュージアム事業を当社が継承することから、財団職員も当社社員として入社してもらうこととしている。営利企業である株式会社においては事業収支が求められ、ビジネスの視点で業務を行うことが必要となることから、研修の実施等により社員の意識改革を図る。
当年度結果 (※)	展示場運営部門、伝統産業部門それぞれに所属する社員が互いの業務についての理解を深めるため、展示場運営部門所属社員には伝統産業についての勉強会を、伝統産業部門所属社員については勸業館展示場についての勉強会を実施した。 また、感染予防対策に万全を期し、当館を安全・安心な施設としてご利用いただけるように国際衛生基準となる「GBAC STAR認証」を取得するため、社員全員がコロナ感染症について学び、理解度を示すテストに合格した。

指標	効果的な研修の実施 (単位：回)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	2回以上	4回	2回以上	2回	2回以上	1回	2回以上	4回

(4)その他の取組

目標「持続可能な経営」	
当年度目標	令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症に伴う催事の見送り傾向が見られ、令和2年度に引き続き稼働率のV字回復が見込めない中、当期純利益の確保は相当厳しい状況であるが、収支の改善に向けて、営業の強化、経費の削減に取り組む。 自律化について、新型コロナウイルス感染症の影響により財務状況が悪化し、今期に引き続き来期も大幅な赤字となる見通しであることから、当社の企業価値が下がっており、現時点で京都市所有の株式の買い手がなく、当面の自律化が困難な状況である。企業価値の回復には、安定した収益性の向上が求められることから、相当の時間を要すると思われるが、まずは収支の改善に向けて取り組んでいく。
当年度結果 (※)	引き続きコロナ禍の影響大きく受けている中で、収益構造の改革に取り組んだ。特に人件費については、代表取締役の報酬カット、社員の定期昇給の停止に加え、業績連動型賞与制度を導入するなど給与制度の改定を行った。 税引前当期純利益については、令和3年度は京都市から「公の施設が果たすべき機能を維持するため」として特別に指定管理料（特別利益）を受けることができたことから、2期連続の赤字は回避することができたが、それは市のサポートによるものであり、経営が安定している訳ではないと認識している。

指標	税引前当期純利益 (単位：千円)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
							△ 144,000	26,434